

合併10周年！

男女共同参画新時代

南九州市の合併した日と同じ、12月1日に施行された南九州市男女共同参画推進条例も今年で10年目を迎えます。
市民の皆様はこの10年で男女共同参画の意識にどのような変化があったでしょうか。10年目の節目に再認識してみましょう！

男女共同参画社会って？

皆さんは、「男だから、女だから」という性別による理由で我慢をしたり、諦めたりしたことはありませんか？もしそうだとしたら本人にとっても社会にとっても大きな損失です。

性別に関わりなく、それぞれの個性と能力を十分に発揮でき、多様な活動を選択できる社会、それが男女共同参画社会です。

市では、南九州市男女共同参画推進条例に基づき、男女共同参画社会の実現を目指しています。

日本の最重要課題のひとつ

わが国では、平成11年に制定された男女共同参画社会基本法により、「男女共同参画社会の実現は21世紀のわが国社会を決定する最重要課題」と位置づけられています。

なぜ、最重要課題と位置づけられているのか。それには主に二つの理由が挙げられます。一つは人権意識の問題、そしてもう一つは少子高齢化による労働人口の減少が急速に進んでいることです。

これらの課題解消のためにも男女の不平等感をなくし、男女共に仕事と家庭を両立できる社会を実現するなど、多様な活動を選択できるような施策が重要となっています。

鹿児島県民の意識にも変化が！

鹿児島県が行った「平成28年度男女共同参画に関する県民意識調査（下表）」によると「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきか」という考え方に對し、肯定が45・8%、否定が48・3%となり、今回初めて「否定」が「肯定」を上回りました。県民の意識も確実に変わってきています。

市や県の取り組み

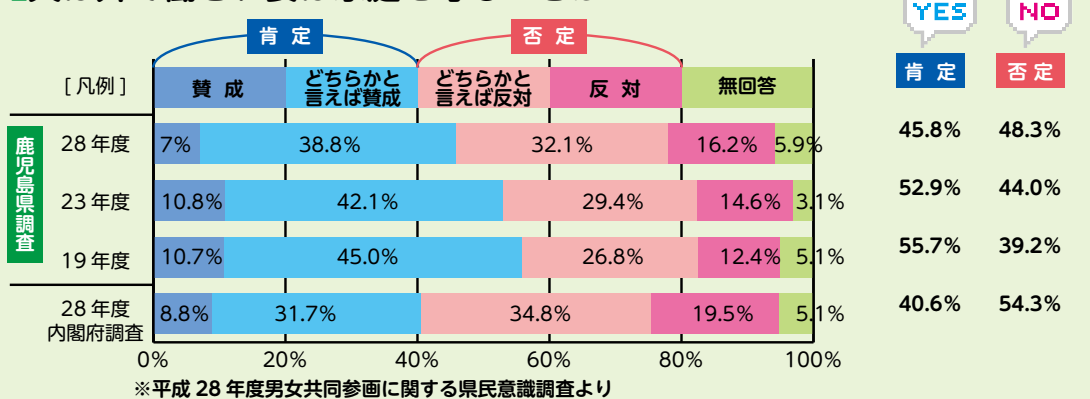
市では男女共同参画社会の実現に向けてさまざまな事業を行っています。

その一つが出前講座で、「地域、職場、団体、学校など」に對し、無料で講師を派遣し普及啓発を図っています。また、全市民を対象にした住民講座も行っています。

このほか、県では、地域において市町村と協力し、地域に根ざした活動を行う鹿児島県男女共同参画地域推進員を設置しています（南九州市には4人）。



夫は外で働き、妻は家庭を守るべきか？



現在は女性も 活躍する時代

働く女性を取り巻く環境は、「働きたいけど、出産・育児のために離職せざるを得ない」「離職後の再就職は非正規雇用者となる場合が多い」「女性の管理職登用が低水準である」など女性の力が十分に発揮できているとはいえない状況にあります。

これに対し、「最大の潜在力」として期待されている女性の力を最大限に発揮できるよう平成28年4月1日に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が施行されました。

今後は、誰もが働きやすい職場環境づくりや多様性のある社会づくりを進めるために、長時間労働の改善や育児や介護の支援など、社会全体で働き方を見直す必要があります。

まだまだ少ない 男性の家事・育児

女性が仕事と家庭生活の両立を図り、働く場において活躍するためには男性の家庭生活への参画の促進が不可欠です。

男性の育児休暇 体験談

（南九州市在住）男・32歳
H・Yさん

取得して、色々な気づきがありました。
まず、主婦（夫）業というのは決して楽な仕事ではないということですよ。

小さな子どもを持つ家庭の一日は、朝食準備等、洗濯掃除、子どもと遊ぶ、寝かせ、昼食準備等、子どもと遊ぶ、子どもを寝かせる、夕食準備等、お風呂に入れる、子どもを寝かしつける。そして、やっと一段落です。特に、最初の数日は気が付けば一日が終わっていました。何か特別なことをしたわけでも何かを成し遂げたわけでもないのに、何とも言えない気持ちになりました。

結婚してから今まで、普通の生活を送っていたつもりですが、いつもそこにあった「当たり前」は、こうして支えてくれる人（妻）がいてこそのものだと再認識できました。

子どもと接する時間を大切にしたいと思って育児を取得しましたが、実は、育児は主婦（夫）の気持ちや少しで分かるようになることに最大の意味があるように思えました。

また、家族の時間を持つことの大切さを実感しました。

日々の生活の中において、家族とのまとまった時間を確保することはなかなか難しいことですが、育児を取得して時間を持てたからこそ、今までの生活を見つめ直し、これからのライフプランを考えることができました。特に、子どもの教育や家計、保険などについて夫婦でしっかり話し合ったり調べ物をしたりできたことは、意義深いものがありました。最後により、子育てというものはなかなか思うとおりにはなりません。

だからこそ、良い意味で、臨機応変に、鹿児島弁で言うところの「げげに」、「ま、いっか」の精神で、物事をポジティブに考える勉強の場・鍛錬の場でもあるように思えました。普段の生活はもちろん職場において、良い意味でポジティブに物事を考えて行動できるようになりたいたいです。

